教育研究業績書

2025年05月07日

所属：健康・スポーツ科学科

資格：特任教授

氏名：長井 勘治

研究分野	研究内容のキーワード
教育経営、教員養成	学校組織運営、教育課程経営、地域連携、教員養成教育
学位	最終学歴
教育学修士、教育学士	京都教育大学 教育学部 体育学科 卒業 兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 学校教育専攻 教育経営コース 修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 校長	2009年4月～2014年3月	公立高校にて、職員会議、校内人事、校内組織、入学式・卒業式等について学校改善を実施するとともに、新たなコースとして教員養成系コースを設置。
2. 教頭	2003年9月～2008年3月	公立高校の教頭として2校経験し、1校目では2校を統合再編しての普通科全日制単位制高校づくりに参画等、2校目では文部科学省の指定により、学校評価・授業評価研究等を実践。
3. 保健体育科教育（保健体育全般）	1984年4月～2003年8月	○公立普通科高校にて高校生を対象に保健体育科指導に従事 ○車いすを使用している生徒に対して、チェアスキー指導、パラリンピックにおける車いす100m走指導等に従事
4. 部活動指導	1984年4月～2003年8月	硬式野球部を中心として、器械体操部、少林寺拳法部等の指導に従事
5. 障がい児・者のスペシャルオリンピック	1980年4月～2003年3月	○サッカー指導者として第1回全国大会（東京）にて優勝、第6回国際大会（ルイジアナ州立大学）にて銅メダル獲得
6. 分掌業務	1979年4月～2003年8月	教務部を中心として、生徒指導部、保健部などに所属し、教育課程編成・成績処理や生活指導、保健指導に従事
7. 担任業務	1979年4月～2003年3月	支援学校にて2年（教諭として5年間勤務）、普通科高校にて9年間（教諭として18.5年間勤務）の担任経験
8. 障がい児教育（知的障がい児の体育全般）	1979年4月～1984年3月	○支援学校にて主に知的障がい生徒を対象に体育指導に従事 ○第3回日本スペシャルオリンピックス全国大会(大阪)の運営に従事 ○第6回スペシャルオリンピックス国際大会にて、日本代表サッカーチームを率い、銅メダル獲得
2 作成した教科書、教材		
1. 子どもの運動神経を伸ばすための基礎トレーニング（追補版）	2023年10月	小(中)学生を対象とした基礎体力向上のためのトレーニングブック ゲームトレーニング、ダンストレーニングで、狭い場所、短い時間でも楽しく取り組めるように構成されており、YouTubeでトレーニング方法を確認できる。昨年作成した追補版を改善して作成。
2. 子どもの運動神経を伸ばすための基礎トレーニング（追補版）	2022年3月	小(中)学生を対象とした基礎体力向上のためのトレーニングブック ゲームトレーニング、ダンストレーニングで、狭い場所、短い時間でも楽しく取り組めるように構成されており、YouTubeでトレーニング方法を確認できる。初版を改善した追補版として作成。
3. 子どもの運動神経を伸ばすための基礎トレーニング	2021年12月	小(中)学生を対象とした基礎体力向上のためのトレーニングブック ゲームトレーニング、ダンストレーニングで、狭い場所、短い時間でも楽しく取り組めるように構成されており、YouTubeでトレーニング方法を確認できる。
4. 新しい視点から見た教職入門	2018年4月20日	教職課程履修者のための入門書（部分執筆）
5. 現代社会と教育の構造変容	2018年4月10日	教職課程履修者のための入門書（部分執筆）
6. 人間教育を視点にした教職入門	2014年12月1日	教職課程履修者のための入門書（部分執筆）

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 中学校教諭専修免許状（保健体育）	2000年8月26日	
2. 高等学校教諭専修免許状（保健体育）	2000年8月26日	
2 特許等		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 大阪府教育行政評価審議委員会、会長	2024年7月7日～2026年7月6日	大阪府教育振興基本計画に掲げる施策等の点検及び評価を行い、同計画の進捗を管理するにあたり、教育に関する専門的知識及び経験を有する方の御意見をいただく
2. 大阪府島本町教育委員会点検・評価協力者	2024年6月17日2024年7月19日	島本町教育委員会の「令和5年度島本町教育委員会の点検・評価結果報告書」（素案）に係る意見聴取への協力
3. 兵庫教育大学大学院	2022年～現在	客員教授として、専門職学位課程、教育実践高度化専攻、学校経営コースにて、現職教員や、教育委員会指導主事などの指導
4. 大阪府教育行政評価審議会委員	2022年～現在	大阪府教育振興基本計画に掲げる施策等の点検及び評価を行い、同計画の進捗を管理するにあたり、教育に関する専門的知識及び経験を有する方の御意見をいただく
5. 大阪成蹊女子高等学校学校評議員会	2015年4月1日～2019年3月31日	学校評議員
6. 高槻市教育委員会事務評価委員会	2014年6月6日～2017年3月31日	事務評価委員
7. 高槻市立阿武山中学校学校評議員会	2014年6月1日～2020年3月31日	学校評議員
8. 大阪府立高槻北高校に教志コースを設置（校長）	2012年4月～2014年3月	大阪府教育委員会の公募に対応しての教員養成系コースとして2012年度より設置。コース必修科目としての「教志入門」では25大学から40名の教員が毎週来校して講義を行い、「教志体験」では生徒一人ひとりが2校種にわたって実地実習を体験している。希望によりコース生となるが、初年度となる2013年度は360名中94名が教志コース制となる。コースにはその他さまざまな取組が用意されており、このような取組は他の高校に例を見ない。
9. 大阪府高等学校野球連盟	2010年9月～2014年3月	副会長
10. 大阪府立高槻北高校における学校運営の改善（校長）	2009年4月～2014年3月	○職員会議、運営委員会、校内組織構造、教職員の校内人事、教育課程、入学式、卒業式の改善 ○学校内規の改善と細則、申合せ、様式などを電子データ化 ○学校評価、授業評価の実施（2008年度～）、研究指定校として文部科学省に報告書の提出 ○校内LANの構築：成績処理、出欠管理などの校務を電子データ処理に移行（2009年度～） ○その他、職員朝礼の導入、生徒指導の強化、制服の見直し、外部教育力の導入、広報・地域連携の強化、北高スポーツ教室実施、カラー版年間行事計画、マスコットキャラクター・着ぐるみ作成等 ○地元高槻市の教育委員会、教育センターと連携して、中高合同新任研修実施（2011年度～）
11. 高槻市青少年問題協議会	2009年4月～2012年3月	委員として参画
12. 大阪府立槻の木高等学校の立ち上げ（教諭、教頭）	2002年4月2008年3月	既設2校を統合再編して、大阪府で初めての進学重視型普通科単位制高校の創設に教諭・教頭として関与。ホームページの作成、教育課程編成、校内組織構造の

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
13. 大阪府立福井高等学校の改編	2000年4月～2002年3月	構築、学校内規の編成等。 普通科高校であった福井高校を普通科総合選択制への改編に参画。教育課程改編、教育ボランティア制度の創設等。
14. スペシャルオリンピクの全国大会運営、国際大会参加	1980年4月～1984年3月	支援学校に勤務し、スペシャルオリンピク大阪地区委員会立ち上げに参画。 指導者として、第1回全国大会に出場（優勝、サッカー）、第6回国際大会（於、ルイジアナ州立大学）に出場（銅メダル、サッカー）。 大阪地区委員会事務局次長として、大阪での普及・啓発に努めると共に、第3回全国大会を大阪（長居陸上競技場）で開催、開会式では御堂筋を聖火リレーする。
4 その他		
1. スクールリーダー実践研究賞（大阪教育大学）	2014年11月15日	創発型学校づくりの組織と過程－高槻北高校の教志コース－
2. 優秀教職員表彰（大阪府教育委員会）	2012年3月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 教育実践の物語を紡ぐ<実践研究 教師のライフコース>	共	2024年3月20日発行	一莖書房	高等学校における学校教育の当事者として、自身のライフコースを若年期、中堅期、教頭期、校長期に分けて記述すると共に、実践研究の意義について記述。P. 150-170【共著者名】大脇康弘、田中満公子、深野康久、高井良健一、石井英真、由布佐和子、太田洋子、中山大嘉俊、西川潔
2. 新しい視点から見た教職入門 第3版	共	2023年4月20日	大学教育出版	教職を志す学生等を対象として、教員の資質向上と研修について記述。P. 108-125【共著者名】中田正浩、住本克彦、藤田栄治、森一弘、久田孝、宮坂政宏、清水和久、中田律子 等
3. 新しい視点から見た教職入門	共	2018年4月20日	大学教育出版	教職を志す学生等を対象として、教員の資質向上と研修について記述。P. 107-123【共著者名】中田正浩、住本克彦、藤田栄治、森一弘、久田孝、宮坂政宏、中田律子 等
4. 現代社会と教育の構造変容	共	2018年4月10日	ナカニシヤ出版	学校経営や学級経営についての機能と構造について記述。P. 33-45【共著者名】西川信廣、山本智也、浅田昇平、久保富三夫、惣脇宏、高田満彦 等
5. 人間教育を視点にした教職入門	共	2014年12月1日	大学教育出版	教師をめざす学生を視野に高等学校教員の仕事、高等学校の学級経営、高等学校の生徒指導について記述。p. 129-140、p. 170-177、p. 199-206【共著者名】中田正浩、鎌田首治朗、松田智子 等
6. 高大連携方策についての実践研究	共	2014年8月9日	教職の先達第2号（兵庫教育大学大学院同窓会）	ローコスト、ハイリターンであり、かつ双方の負担が少ない高大連携の方策にはどのようなものがあるのか。大阪府立高槻北高校の「教志コース」の科目「教志入門」の取組からその方途を模索する。P. 48-51【共著者名】中田正浩、恩地忠司、難波治彦、池田恩四郎、吉田廣、山下裕 等
7. 『校長職の新しい実務課題』露口 健司編	共	2011年5月	教育開発研究所	「初任者・若手教員の指導・支援をどう進めるか」、教員の年齢構成が変化していくこと（低年齢化）を踏まえ、任用前と任用後にどのような養成・研修が必要かについて、ICM体制やPPDCAサイクル等の提案と共に記述。pp. 60-63【共著者名】八尾坂修、増田健太郎、赤星晋作、伊藤文一、藤原文雄、城戸茂 等
8. More better <大阪府立槻の木高等学校開校4年間の記録>	単	2008年3月	日本教育総合研究所	大阪府で初めての普通科単位制高校の開校からの4年間を学校運営体制の構築を中心として記述。
9. 学校創設期における学校評価と組織改善－大阪府立槻の木高等学校の事例から－	共	2006年1月	兵庫教育大学現代学校経営研究会紀要第18号	学校創設期から学力の充実や規範意識の確立などの教育目標の元、他校に例を見ない校内組織構造や教育課程等を編成し、学校評価、授業評価を活用しての改善に取り組んでいる公立高校を紹介している。pp. 13-21【共著者名】加治佐哲也、廣野孝、岡本喜代治 等
10. ④堀内 孜編著『学級編成と地方分権・学校の自律性』「高等	共	2005年1月	多賀出版	「高等学校の定数制度と学級編成の特質1-4」、高校標準法が改正され高校の6次改善がスタートする中で、大阪府の現状を基に加配教員の有効活用方策について記述。pp. 271-277

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
学校の定数制度と学級編成の特質				【共著者名】清原正義、八尾坂修、加治佐哲也、国祐道広、高見茂、三上和夫 等
11. 高等学校の教育課程経営に関する研究－内発的な改善事例の分析－	共	2001年2月	兵庫教育大学現代学校経営研究会紀要第13号	特色ある学校作りを目指して、総合学科高校の原則履修科目である「産業社会と人間」を含む大幅な教育課程改編を先進的に実施した高校が、どのような経緯や要因をもって改革の校内合意を形成し、改革に踏み切ることができたのか(導入を着てする要因)について、事例校から示唆を得た。pp.47-55
12. 普通科高校における生徒の多様な進路に対応した教育課程の編成について－「産業社会と人間」を多様な選択科目にどのようにリンクさせるか－	単	1998年3月31日	文部省指定、高等学校教育課程研究指定校、研究報告書	【共著者名】笠沙知章、梅本忠 等 多様な選択科目を設定し、それを教育課程にどのように位置づけ、どのように選択させることが生徒の進路目標実現にとって有効であるのかについての実践研究
2 学位論文				
1. 高等学校の教育課程経営に関する研究－内発的な改善事例の分析－	単	2000年3月	兵庫教育大学大学院修士課程学位論文	学習指導要領改訂に伴い、それぞれの高校は教育課程の改編を迫られることになるが、教育課程を含めて学校教育活動をいかに改善していくことが、生徒にとってより良き改善となるのであろうか。本研究では先行的に総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」を教育課程に取り入れた高校を事例として、その内発的改善の導入を規定する要因と定着要因を調査することで示唆を得ようとした。
3 学術論文				
1. 学校改善における校長のリーダーシップ－大阪府立高槻北高校での実践事例を踏まえて－(査読付)	単	2017年8月31日	スクールリーダー研究会紀要第10号	校長は、学校が抱える課題の改善に向けてリーダーシップを発揮するためには、何からどのように着手すればよいのだろうか。また、改善過程や改善後の継続性を担保するためには、何に留意すべきであろうか。 このような内容について、事例校での実践を通して考察している。
2. 教育委員会制度について考える－校長時代における教育委員会との連携をふまえて－	単	2016年3月	関西教育行政学会研究紀要「教育行財政研究」第43号	学校現場でよりよい教育を展開するためには、教育委員会と校長がいかにうまく連携していくかが大きなポイントとなる。校長時代の様々な実践事例を紹介、今後の教育委員会と校長とのより良い連携方策について考察している。
3. 高校における行内組織作りの実践的研究－公立高校での実践事例を通して－	単	2015年8月	スクールリーダー研究会紀要第7号	公立高校が現状に満足することなく、教職員一人ひとりが持てる力量を発揮してよりよい学校にするために必要な組織作りについて、2校の実践事例を紹介することを通して学校改善に向けての組織改編のあるべき姿について検証した。
4. 学校改善を意図した校長と教員の協働についての実践事例－大阪府立A高等学校の教育学部志望者コース設置を中心として－(査読付)	単	2015年6月	日本教育経営学会紀要第57号	公立高校を維持するのではなく前進させていくために校長と教員はいかに協働していけばよいのかについて、公立普通科高校に新たなコース設置を通して前進を図った事例について省察した。コースの設置過程や内容の紹介と共に、管理職のリーダーシップの発揮と教職員との協働について考察している。
5. 創発型学校づくりの組織と過程－高槻北高校の教志コース－	単	2014年11月15日	大阪教育大学主催の「スクールリーダー実践研究賞」受賞	高槻北高校における教志コースの設置に至るまでの経緯と1年目の実践を記述することで、創発型学校改善のプロセス(スクールリーダーのリーダーシップとマネジメント)についての示唆を得ることを目的とした。
6. 「普通科総合選択制高校への改編事例－教育課程と組織の改革に伴う諸問題を中心に－」(査読付)	単	2001年5月	日本教育経営学会紀要第43号	府教委の指示を受け、筆者の勤務校である普通科高校を普通科総合選択制高校に改編するにあたっての改編過程について、教育課程改編と組織改革を中心として記述する中でより良き学校作り(内発的改善)の示唆を得ようとした。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
1. 教育委員会制度について考える一校長時代における教育委員会との連携をふまえて一	単	2016年3月	関西教育行政学会 研究紀要「教育行政研究」第43号	
2. 「高等学校の教育課程経営に関する研究」		2000年6月	日本教育経営学会	
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1. 2024年	兵庫県丹波市の小中学校における体力向上の取り組みに参画（ハンドブック追補版の作成と小学校に向向いての体力向上指導）
2. 2023年	兵庫県丹波市の小中学校における体力向上の取り組みに参画（小学校に向向いての体力向上指導）
3. 2021年	兵庫県丹波市の小中学校における体力向上の取り組みに参画（ハンドブック追補版の作成と小学校に向向いての体力向上指導）
4. 2020年	兵庫県丹波市の小中学校における体力向上の取り組みに参画（ハンドブックの作成と小学校に向向いての体力向上指導）
5. 2019年	兵庫県丹波市の小中学校における体力向上の取り組みに参画（小学校に向向いての体力向上指導）
6. 2018年9月	教育雑誌（月刊高校教育9月号）：学校組織者としてのライフコースー学校評価を踏まえた学校改革<校長 普通科の教員養成コースを設置>一、pp.90-93
7. 2018年8月	教育雑誌（月刊高校教育8月号）：学校組織者としてのライフコースー学校の統合再編を支える<教頭コンセプト作成から実践へ>一、pp.90-93
8. 2018年1月31日	講演（高槻市立第八中学校教員研修会）授業作りについてー今、教育に求められていることー
9. 2017年12月7日	講演（グランフロント大阪、ナレッジサロン）小学生の体力向上から考える学校のブランディング
10. 2017年9月	教育雑誌（月刊高校教育9月号）：教育実践者としてのライフコースー大学院での学びと学校改革一、pp.84-87
11. 2017年8月	教育雑誌（月刊高校教育8月号）：教育実践者としてのライフコースー学校行事を通じた基盤形成一、pp.84-87
12. 2017年7月6日	講演（兵庫県中学校高等学校体育教育研究会）可能性を創造するために
13. 2017年7月1日	講演（高槻市立阿武山中学校PTA家庭教育学習会）未来に向かって子どもの可能性を創造する
14. 2017年2月28日	講演（大阪成蹊女子高等学校教職員研修）アクティブラーニングとは
15. 2017年2月18日	講演（大阪市小学校教員同志会）チームとしての学校ー私の管理職経験をふまえてー
16. 2017年2月15日	発表（武庫川女子大学、第1回 研究成果の社会還元促進に関する発表会）小学校における児童の体力向上に向けた取り組みについてー新体力テストを活用しての小学校と大学の連携の試みー
17. 2016年～2019年	兵庫県西宮市の小学校における体力向上の取り組みに参画
18. 2016年	兵庫県伊丹市の小中学校における体力向上の取り組みに参画
19. 2015年12月13日	関西教育行政学会シンポジウムにパネラーとして参加、教育委員会制度について考える一校長時代における教育委員会との連携を踏まえて一
20. 2015年3月17日	大阪府高槻市の市立中学校において体育の研究授業の指導助言
21. 2015年1月19日	講義（伊丹市教育委員会、教頭会）実践的学校経営について
22. 2015年～2016年	大阪府高槻市の小中学校における体力向上の取り組みに参画
23. 2014年12月2日	教育雑誌（週刊教育PRO）：行動するスクールリーダー「教志コース設置の経緯と運営」、PP.20-21
24. 2014年11月18日	教育雑誌（週刊教育PRO）：行動するスクールリーダー「学校改善を意図した学校評価」、PP.18-19
25. 2014年9月20日	学会報告（関西教育行政学会）：「高大接続についての実践事例ー高槻北高校の教志コースからー」
26. 2014年7月	教育雑誌（月刊高校教育）：一創発型の学校づくりー高槻北高の教志コース一、pp.70-73
27. 2014年6月22日	報告（福井大学、実践研究福井ラウンドテーブル、実践し省察するコミュニティー）：「創発型学校づくりの組織と過程」
28. 2013年11月	講義（大阪体育大学）：教師を目指す4回生（120名）に講義、「教育職について」
29. 2013年4月	教育雑誌（週刊教育PRO）：公立高校の連携についての一考察、pp.16-21
30. 2012年12月	講義（関西大学）：「教育職について」

学会及び社会における活動等

年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
31. 2012年12月	講義（千里金蘭大学）：「ゆとり世代の学生対応について」
32. 2012年8月	講演（高槻市立公立中学校長研修）：「進路指導を取り巻く現状について」
33. 2012年5月	講義（兵庫教育大学大学院）：「開かれた学校づくりの事例と実践演習」にて講義、「地域資源を活用した特色ある学校づくりの事例検討」
34. 2012年1月	学会報告（関西教育行政学会）：「公立高校における学校改善の一取組事例報告」
35. 2011年4月	実践発表（高等学校初任者研修実施高校長等連絡協議会）：「本校での初任者研修について」
36. 2010年12月	発表（ERP研究会（教育プロ）高大連携セミナー）：高大連携の考え方と実践－大学選択におけるミスマッチを防ぎ、高校・大学での学びを深めるために－
37. 2010年12月	講義（兵庫教育大学大学院）：「高校における特色あるカリキュラム開発の実際と手法」
38. 2010年11月	発表（大阪府立学校経営研究発表大会）：「校長のリーダーシップを考える＜2年間の校長経験から＞」
39. 2010年9月	教育雑誌（週刊教育PRO）：学校評価2年間の取組と今年度の展望＜その1＞＜その2＞
40. 2009年11月	発表（第9回スクールリーダーフォーラム）：「学校評価の充実・改善のための実践研究」
41. 2009年8月	発表（大阪府高等学校長会シンポジウム）：「学校評価・授業評価実践報告」
42. 2009年7月	例会報告（関西教育行政学会）：「学校評価の充実・改善のための実践研究」
43. 2009年3月	報告書作成（文部科学省研究指定校）：「学校評価」
44. 2007年2月	講義（学校経営研究会実践講座（明石市））：「実践に学ぶ 大阪府立高等学校における学校改革の取組み－総合選択制への改編と単位制への改編に関わって－」
45. 2006年9月	講義（広島大学土曜セミナー）
46. 2005年8月	発表（大阪府立高等学校教頭会 ブロック交流セミナー）：「本校の進路指導の取組」
47. 2004年7月	発表（関西大学パネルディスカッション）：「学校インターンシップの可能性について」
48. 1998年3月	報告書作成（文部科学省研究指定校）：『普通科高校における生徒の多様な進路に対応した教育課程の編成について－「産業社会と人間」を多様な選択科目にどのようにリンクさせるか－』